

今こそ身につけたい“教養”、 大人のためのWEBマガジン「LINK@TOYO」

2020年10月、本学のWebメディア「LINK UP TOYO」をリニューアルし、より多くの方に役立つ情報を提供する「LINK@TOYO」を公開しました。

LINK@TOYOは、総合大学ならではの幅広い研究と、個性豊かな在学生・卒業生による活動などを通じて、暮らし・ビジネス・社会問題・スポーツ・芸術などあらゆる“教養”の獲得を後押しするWebマガジンです。



▼ What's New

SOCIAL 地方創生の実現に向けて、“持続可能な地域”をつかった具体策を大学教授に聞いてみた
経済学研究科 根本祐二教授

LIFE 放っておくと怖い「睡眠負債」。寝不足がもたらす心身への影響と対処法を大学教授に聞いた
社会学部社会心理学科 松田英子教授

CULTURE 書評家・豊崎由美が語る、本の楽しみ方。「本は想像力を培うもの」
書評家 豊崎由美さん 1984年 文学部印度哲学科(現・東洋思想文化学科)卒業

LIFE 家庭でできる「自然災害への備え」とは？<防災の専門家に聞く>
国際学部国際地域学科 松丸亮教授

<https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/>



大学生に役立つ情報が満載 学報バックナンバー

学報のバックナンバーは、公式Webサイトでご覧いただけます。

<https://www.toyo.ac.jp/about/gakuhou/>



TOYO UNIVERSITY NEWS -English Edition-

The English edition of TOYO UNIVERSITY NEWS is available on the University's official website. To read the English edition, access the web page below.

<https://www.toyo.ac.jp/en/about/gakuhou/>



東洋大学教育・研究協力資金 ご支援のお願い

東洋大学では、日本および世界の将来を見据え、先進的な知的拠点の確立を目指すとともに、国際社会で活躍できる人材育成に取り組んでおります。そこで、本学の教育・研究協力資金のご支援をお願いするための情報発信を行うWebサイトを公開しています。詳細は右記URLからご覧ください。 <https://kifu.toyo.ac.jp/>



発行日/2020年12月7日
発行/東洋大学
編集/総務部広報課
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL 03-3945-7571
URL <https://www.toyo.ac.jp> E-mail mlkoho@toyo.jp

次号の発行予定は、2021年3月です。(英語版はWebサイトで公開予定)

TOYO UNIVERSITY NEWS

Dec. 2020 No.260

TOYO UNIVERSITY NEWS

東洋大学報

Dec. 2020
No.260

朝霞キャンパスの軌跡

2021年春、ライフデザイン学部とライフデザイン学研究科は赤羽台キャンパスへ

初のオンライン開催！ 大学祭レポート2020





CONTENTS

表紙&巻頭ページの写真：
朝華祭の企画で「巨大ドミノ倒し」を披露し、
お世話になった朝霞キャンパスと周辺地域に向けた感謝のメッセージを伝えた
(朝霞キャンパス コミュニティセンター内多目的ホール)



- 04 | 朝霞キャンパスの軌跡
2021年春、ライフデザイン学部と
ライフデザイン学研究科は赤羽台キャンパスへ
- 06 | ライフデザイン学部
水村容子学部長インタビュー

- 08 | 初のオンライン開催！
大学祭レポート2020
- 12 | 第97回箱根駅伝
その1秒をけずりだせ！

- 14 | Alumni Report
株式会社ガンバ大阪 代表取締役社長
小野 忠史さん
- 16 | NEWS・INFORMATION

朝霞キャンパスの軌跡

2021年春、ライフデザイン学部とライフデザイン学研究科は赤羽台キャンパスへ

本学では「地球社会の明るい未来を拓く」を目標に中期計画「TOYO GRAND DESIGN 2020-2024」を掲げ、キャンパスの整備や学部学科の再編などを進めています。その一環として、2021年4月に朝霞キャンパスで学ぶライフデザイン学部とライフデザイン学研究科が赤羽台キャンパスへ移転します。

朝霞キャンパス、学びのあゆみ

1977年に開設した朝霞キャンパスは、埼玉県朝霞市の黒目川沿いにある落ち着いた雰囲気の特徴です。2005年3月まで文・経済・経営・法・社会学部の1・2年生が学び、同年4月からは、新設されたライフデザイン学部のキャンパスとしてリニューアル。ライフデザインの学びに適した施設や地域と連携した多くの実践的な学修により、幅広い専門知識をもった人材を輩出してきました。

- 1977年**
文系5学部の1・2学年用のキャンパスとして開設
- 2005年**
ライフデザイン学部生活支援学科・健康スポーツ学科を設置
- 2006年**
ライフデザイン学部人間環境デザイン学科を設置
福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻を設置
- 2009年**
ライフデザイン学部生活支援学科に生活支援学専攻・子ども支援学専攻を設置
福祉社会デザイン研究科人間環境デザイン専攻を設置
地域の健康づくりを推進する「Keep Active」を開始
実験工房棟が「第18回BELCA賞ベストリフォーム部門」で表彰
- 2014年**
新体育館竣工、テニスコート移設
- 2015年**
ライフデザイン学部開設10周年として、シンポジウムやイベント、コンテストなどを開催
朝霞市と連携協力に関する包括協定を締結
- 2018年**
ライフデザイン学研究科生活支援学専攻・健康スポーツ学専攻・ヒューマンライフ学専攻・人間環境デザイン専攻を設置
- 2021年4月**
ライフデザイン学部とライフデザイン学研究科が赤羽台キャンパスへ移転



朝霞キャンパスを彩った活動と思い出の施設



地域の子育てを支える
「子育てサプリ・子育てひろば」

子ども支援学専攻の学生と教員が中心となり、他学科他専攻の学生や教員も参加して、キャンパス内の保育実習室等を開放。0歳～就学前の子どもとその保護者を対象に、親子で楽しめるプログラムや保護者がリフレッシュできる講座を提供しました。参加者が子育て仲間をつくれる充実した場となっただけでなく、学生も子どもや保護者の日常を知ることができる貴重な機会となりました。



シニアの健康づくりに取り組む
「Keep Active」

2009年にスタートした「Keep Active」では、朝霞市内のシニア世代を対象に、健康的な身体づくりに取り組む場を提供してきました。保健体育の教員や健康スポーツに関する職業を目指す学生が企画・運営を担当。また、2014年開始の「健康スポーツ倶楽部ASAKA」では、小学生を対象にさまざまなスポーツ・運動体験プログラムを提供しました。養護教諭を目指す学生が、子どもの健康管理と安全管理にあたってきました。



小学生の好奇心を刺激する
「子ども大学あさか」

子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会と、地域で子どもを育てる仕組みづくりを目指した「子ども大学あさか」を開校。小学4～6年生を対象に、大学教員やさまざまな分野の専門家による「はてな学」「ふるさと学」「生き方学」という3つのテーマで講義や実習体験を企画。2011年にはじまり、「埼玉・教育ふれあい賞」を2度受賞するなど地域に根づいた活動が高く評価されました。



実践的にデザインを学ぶ
「実験工房棟」

実験工房棟は、もともと研究室として使用していた空間をライフデザイン学部開設にあたり、内部のみリフォームを施し2005年に竣工。吹き抜けのアトリウムが特徴的で、最新の3Dプリンターやレーザーカッター、各種工作機器が充実し、技術や機械操作に精通した常駐技術員が相談や指導を行うなど、人間環境デザイン学科の演習の場として常に学生の創作活動を支えました。



豊富なメニューでキャンパスライフを応援
「朝霞生協食堂」

豊富なメニューが自慢の朝霞生協食堂は「カフェテリア」「麺コーナー」「丼コーナー」のほか、サラダバーなど充実した品揃えで、楽しい食事のひとときを提供しました。一人暮らしをする学生へのサポートとして、食堂のレシートには選んだメニューの栄養バランス点数を表示。簡単に栄養価のチェックができる仕組みが好評でした。



福祉・健康・人を象徴する緑あふれる
「憩いの広場」

四季折々の風景が楽しめる憩いの広場では、天気の良い日に学生たちがスポーツを楽しんだり、ベンチで談笑しながら食事をしたりするなど、学生生活の楽しい時間を過ごしました。また、朝華祭では、メインステージが設置されるなどさまざまな表情があり、多くの学生にとって思い出の場所となりました。

NEXT TOPICS

ライフデザイン学部長 スペシャルインタビュー

次のページでは、ライフデザイン学部の水村容子学部長に、朝霞キャンパスでの取り組みや成果などを振り返るとともに、赤羽台キャンパスへの移転で目指すものについてお話いただきました。→P.06

赤羽台キャンパスに 新校舎「WELLB HUB-2」が誕生

建築家・隈研吾氏が建築設計を行ったライフデザイン学部等の移転先となる新校舎が2021年4月に赤羽台キャンパスに誕生します。「つながる」をテーマにデザインされた空間や学びの設備を、2021年3月発行予定の261号で特集します。



パース図提供：東洋大学赤羽台キャンパス設計監理共同企業体（隈研吾建築都市設計事務所・日本設計・戸田建設）

朝霞キャンパスの軌跡 Interview

“ 人々の生活に密着し、地域と連携する学び。それはつまり、「地域と一緒に成長する学部」。キャンパス移転は新たな飛躍への好機です。 ”

ライフデザイン学部 学部長

水村 容子

Profile

ライフデザイン学部 学部長。人間環境デザイン学科教授。博士(学術)。建築計画学・住居学を軸足に、特に高齢者や障がいのある人が暮らす住宅を研究。この分野のモデルともいえるスウェーデンでの研究を経験(スウェーデン政府給費生)。本学教授着任後も海外特別研究時に、スウェーデンで研究生活を送る。著書『スウェーデン「住み続ける」社会のデザイン』(2014年)など。



朝霞キャンパスで育った ライフデザイン学部 「誰かのためのプロフェッショナル (専門家)」の養成

朝霞キャンパスにライフデザイン学部が設置されたのは、2005年。日本で初めて「ライフデザイン」という名称を冠した学部でした。現在は「生活支援学科生活支援学専攻」、「生活支援学科子ども支援学専攻」、「健康スポーツ学科」、「人間環境デザイン学科」の3学科・2専攻で構成されています。いずれも、高齢者支援や子育て支援、社会福祉サービス、健康増進、さらには環境デザインという、人々の生活に密着し貢献する実学です。

それぞれの学科の専門は従来の学問分類では別々のものですが、これをひとつの学部の中に置くことで学際的な学びの実現を目指しています。学部共通のプログラムとして他学科の分野を学べる仕組みもあり、「この街にはこんな福祉サービスが重要だ」、「スポーツを通じてどのように健康を維持するか」、

「人を中心に考えたものづくりや環境づくりとは」など、自分の専門を超えて、大切なと感じ取れる学際的環境が整っています。

すべての学科に共通しているのは、「誰かの幸福のため」の学びであることです。生活や健康、環境や子育て、高齢化など、すぐあたり前の、日常に関わる分野を扱っているため、より直接的に人々と関わられます。それだけに、個人のもつ教養や何が人を幸せにするのかなどの哲学が重要だと考えます。

また、学際的・分野横断的に学び、「他の領域の人と話し合える共通言語をもったプロフェッショナル(専門家)」を育成している点も特色です。例えば建築の専門だけれど福祉や健康のことも分かっていたり、あるいは運動の専門家だけれども環境の重要性について詳しいなど。自分の専門を極めつつ、他領域の人とコミュニケーションがとれる人材が育ちます。

現代では、専門領域を深く追求していく力も必要な一方、広い視野で横断

的にコラボしたり、身近な課題解決を実践できる能力も非常に重要です。生活者と専門家、両方の視点を持ち、繋げられる人、それが本学部で学んでいる学生たちの将来像です。

朝霞キャンパスでの15年間で 確立したのは発展の基礎、 そして社会的な存在意義

前述のような学びを確立し、その成長の原動力となったのが、朝霞キャンパスを取り巻く周辺の地域であり、そこに住まい、働き、学ぶ人々です。



私たちの学びの領域はどれも人の生活に沿ったもので、キャンパス内の閉ざされた環境だけで学べるものではありません。また、社会にどんなアウトプットができるかということが常に教育プログラムに取り込まれていますので、必然的に教育が地域との連携・貢献に繋がっていきます。

朝霞市は地域の特性として、東京郊外のベッドタウンでもあり若年層や子育て世代が比較的多いエリアです。そんな地域と繋がる学び・学外での学びの数々が学部の発展を支えてきました。例えば「子育て支援プログラム(子育てサブリ・子育てひろば・キャンパス活動)」などで子どもや保護者を支援したり、教員や学生が講習会を開いたり、プレイパークでの指導やイベント開催にあたりたり。学科ごとにたくさんの地域連携・地域貢献プロジェクトを立ち上げ、発展してきました。

こうした積み重ねの結果、行政や地域のNPO、地域住民の方々との関わりが強まり、活動が広がることである

種のコミュニティをも形成しています。地域の取り組みと、学部の取り組みが手を取り合い「ともに育つ」ことができたといえるでしょう。

ライフデザイン学という、人の生活を考え・教育し・研究し・実践していく、そして地域のハブ(連携の中心)となる。そんな、ライフデザイン学部の社会的な存在意義をあらためて明確にしたのが、朝霞キャンパスでの年月だといえます。

赤羽台キャンパスへの 移転を機に、さらなる飛躍へ

新キャンパスのある北区は東京23区の中で最も高齢化率が高いエリアです。ただ、かつての工場跡地の大規模開発もあり、今後は若年人口も増えていくと期待されています。つまり、高齢者をいかに支えるかという課題と、次世代をどう育成するかという、日本全体が抱えている課題の縮図がここにあるわけです。

他にも学びに関わる要素がたくさんあります。北区には国立スポーツ科学



センターがありトップアスリートの活動拠点になっていること。キャンパスに隣接する団地は、戦後最初に中心市街地に建設された日本有数の集合住宅団地であり、住人の高齢化や建物の建て替え、住民コミュニティの維持などの課題も抱えています。東洋大学は北区ともUR都市機構とも包括的な連携協定を結んでいます。つまりここは新しい学びにあふれたフィールドです。このキャンパス移転を機に、学生も教員も課題解決の実力をさらに磨き、日本を明るい方向に変えていく牽引力になることを目指していきます。

初のオンライン開催!

大学祭レポート

2020

オンラインを活用して開催した今年の大学祭。4キャンパスの大学祭実行委員長の座談会とともに配信の様子をレポートします。

白山祭	INIAD-FES
朝華祭	雷祭

1 先行きの見えない中で不安もあった今年の大学祭

白山祭実行委員長 佐藤さん まずは、大学祭が本当に開催できるかどうか。それを実行委員全員が不安に思っていたことだと思います。私たちは例年通り対面形式での開催ができることを信じて、今できることをやろうという思いで大学の決定を待っていました。

INIAD-FES実行委員長 松岡さん 私は新型コロナウイルスの影響が日々拡大している状況で、従来の対面開催には、正直不安がありました。来ていただいたお客さまを安全にお迎えできる

のか、万が一クラスターが発生したら…と心配をしていました。

朝華祭実行委員長 松島さん どのようなかたちで開催するか決まっていなかったのが、まずは対面で開催した場合のコロナ対策を私たちも考えていました。

雷祭実行委員長 安田さん まずは例年通り企業の方と打ち合わせを重ねながら綿密に準備を進めていましたね。また、例年と異なる形式での開催となった場合に速やかに対応できるよう、連絡を密にしていました。

佐藤さん 準備を進めていく一方で、だんだんと対面開催が難しい状況になっていきました。どうやって白山祭を開催すればよいのか、そもそも開催できるのか…。先が見通せない状況にやはり不安は大きくなりました。

松島さん 対面での開催ができないと決定したときには、今年はまだ大学祭自体を開催することができないんだと思っています。

2 オンラインでも開催できることがうれしかった

松岡さん オンラインで開催することが決まった時は、来場者が感染したら…という不安から解放され、少し安堵したのを覚



キッズ企画でスノードームとプラネタリウム作り挑戦(白山祭)

えています。そしてすぐに、オンラインでの大学祭を絶対に成功させるぞ!と強い気持ちも芽生えましたね。

安田さん 例年の準備に加えてコロナ対策まで必要になり、焦っていた部分もあったので少し安心しました。しかし、前例のないオンラインでの開催に正直不安の方が大きかったです。

松島さん オンラインで開催できると決まった時は、対面でできないことに少し複雑な気持ちはありました。しかし、時間が経つにつれてコロナ禍でも大学祭を開催できることに、ほっとした気持ちになっていきました。

佐藤さん どんなかたちであれ大学祭を開催できることは、とてもうれしかったですね。先輩たちが繋いできた伝統を自分たちも繋げていけることになり、とてもほっとしました。決定してから開催までの時間の少なさには不安や焦りなどももちろんありましたが、それよりもうれしい気持ちが強かったです。

3 開催に向けて準備も“オンライン”を進める

松島さん オンラインでの開催が決まったとはいえ、企画立案や準備のために実行委員たちが対面で打ち合わせすることもできない状況には変わりません。

佐藤さん なかなか集まることができない状況だったので、担当ごとにZoomやLINEなどのツールを用いて準備を進めていきました。授業をオンライン形式で受けていたこともあり、リモートで話すことに慣れていたことは助かりました。

松岡さん INIAD-FESの実行委員会は昨年 Slack や Google Meet といったコミュニケーションツールをすでに使っていたので、その中の情報共有はスムーズでした。しかし、実行委員会には新たに今年入学した1年生も入っていました。1年生はただでさえ実行委員がどんなことをするのか経験していないうえに、オンライン開催になったことでさらに不安だったと思います。なので、できる限り周りでサポートしようと、オンラインで面談を実施したり、アンケートを配布したりしました。一人ひとりに合った仕事や悩みごとを確認したうえで、役割分担



プログラミングサークル「INIAD Developers」による配信風景 (INIAD-FES)

を再編することが必要でした。

松島さん たしかに、1年生は先輩たちとなかなかコミュニケーションをとる機会を作りにくい状況だったと思います。Zoomを使って自己紹介をしたり…なんとかコミュニケーションをとれるように工夫しました。

佐藤さん LINEのように文面だけでやりとりしていると解釈が人によって違ったり、伝わりにくい部分もあります。1つのことを決定するまでに時間がかかってしまうこともあって、Zoomを活用してなるべくお互いの顔を見て口頭で伝えることができる機会を増やしながら準備を進めていきましたね。

安田さん オンライン開催へ変更になったことの相談や、対面開催だった場合にレンタルする予定だった用具のキャンセルなど、外部の方々がたくさんやりとりが必要でした。対面で集まることができなくても、その都度進捗や会話の内容を実行委員メンバーで共有し、誰がどの仕事をどの程度こなしているのか、組織全体で把握することにも注力しました。

Hakusan Campus

第56回 白山祭

2020年10月31日・11月1日

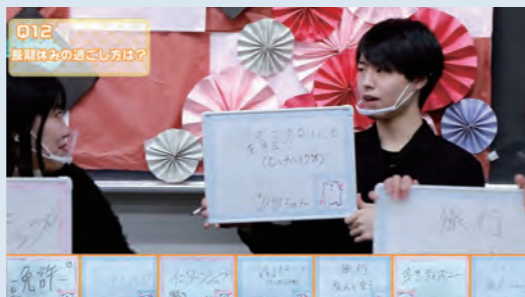


白山祭実行委員長
法学部 法律学科 3年
佐藤 広大さん

今年の白山祭のテーマは、「雅〜伝える和 繋がる輪〜」。東京オリンピック・パラリンピックに合わせ、増える外国人観光客も意識し白山祭を通して日本の良さを伝えていくという想いを込めました。新型コロナウイルスの影響で本来とは違いかたちになりましたが、こんな世の中だからこそ、オンラインを通して伝統を繋いでいけるように工夫しました。一番の見どころは「白山祭注目企画TOYO LIFE」。白山周辺のお店紹介や在学生による座談会など、学生目線の情報をお届けし、白山キャンパスを身近に感じてもらえたと思います。



チアリーディングチームMINNIESによるオープニング



東洋大学生の本音が聞ける「TOYO LIFE」のフリートーク

Akabanedai Campus

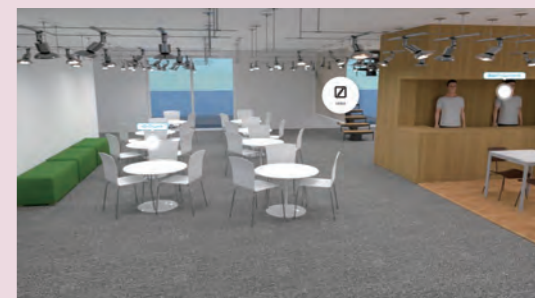
第4回 INIAD-FES

2020年10月31日・11月1日



INIAD-FES実行委員長
情報連携学部 情報連携学科 2年
松岡 励さん

オンラインでの開催が決まり、今回のINIAD-FESのテーマを「Not stay home but stay world.」に改めました。オンラインだからこそそのアクセスの良さに焦点を当て、「家から世界に繋がることができる」という意味を込めています。Webサイトにヴァーチャルキャンパスを作り上げたことは、情報連携学部で学ぶ私たちならではのですね。動画の配信をするだけでなく、仮想空間の中で来場された方々が自由に動き回って体験できる企画によって、実際に赤羽台キャンパスに来たことがなくてもここがどんな場所か知っていただくことができたと思います。



実際の場所や建物を忠実に再現したヴァーチャルキャンパス



ラジオ配信企画での情報連携学部 坂村健学部長による講演

4 前例のない挑戦だからこそ、新しい発想を

松島さん オンライン上でどんな企画をすれば皆さんに楽しんでもらえるのか、アイデアを考えるのは正直難しかったですね。

佐藤さん みんな同じ問題を抱えていたと思いますが、そもそも昨年までの大学祭の企画は、人と人が対面していることを前提として作られています。そのため、どの企画も一から考え直す必要がありました。

松岡さん 赤羽台キャンパスの情報連携学部はもともとコンピュータに深く関わりがある学部なので、オンラインで開催すること自体に抵抗はあまり感じませんでした。しかし、企画を考えるのは難しかったですね。オンラインで会議をしているとはいえ、やはり対面でのコミュニケーションとは異なる点も多く、アイデアは生まれにくかったです。また、オンライン上における法律やルールなども考える必要があり、断念しなければならないような企画もありました。

安田さん 企画の骨格がまとまってからも、そこからさらに詰めていくのはなかなか苦戦しました。開催までの限られた時間の中で、できるだけ連絡の手間を省くためにLINEのノート機能などをうまく活用していろいろな意見や質問をまとめるようにしたり…。大学祭の日が近づいてからは、キャンパスツアー動画の撮影や編集にとりかかりました。小さな教室では滞在時間を少なくし、屋外でも十分に距離をとるなど、可能な限り密な状況避ける配慮をしながら行いました。

松島さん 配信用の映像を制作するにあたって、実行委員の中には映像に写りたくないというメンバーもいました。全員が参加できるようにカメラに写らないで済む企画などを考える必要があり、「映像を撮影して公開する」という手法の難しさも感じましたね。そして新たに生まれた企画が、頭上から定点カメラで撮影をする『巨大ドミノ倒し』でした。

佐藤さん 毎年白山祭で行っている『福引企画』では、抽選器を用いてその場で抽選を行っているのですが、今回オンラインへ落とし込むためにお客さんにもZoomを使用して参加いた



朝霞市のキャラクターとコラボ「ぼぼたんが○○踊ってみた」(朝華祭)

たり、キッズ企画では、子ども向けのYouTube動画の制作を行いました。すべてが初めてのことで不十分な部分もありましたが、ゼロベースの企画ができる楽しさもあったと思います。

5 ついに、初めてのオンライン大学祭当日

松島さん 朝華祭はすべて、事前に撮影・編集を済ませた企画を当日に配信する形式だったので、当日は私も配信された動画とサイトを確認していました。

安田さん 私は制作したサイトの運営や不具合などの対応をしていました。当日はアクシデントが発生することもありましたが、無事に解消して全日程を終えることができました。

松岡さん INIAD-FESの企画にはキャンパスから学生が生配信する企画も含まれていたため、当日はそういった企画が円滑に進むよう配信やサーバーの管理などを大学で行っていました。また、コロナ対策として大学に入る人たちが事前に申請した人であるか、各エリアで密な状況が生まれていないか確認していましたね。

佐藤さん 私もライブ配信に出演したり、外部ゲストの方の

お出迎えをしたり、配信室やスタジオなどを巡回していました。また初めてのオンライン開催で緊張しているみんなを控え室で激励していました。

6 無事に終わり一安心。そして来年に向けて…

松島さん そもそも今年は大学祭が開催できるのかさえわからなかった中で、オンライン形式とはいえ無事に開催することができて、とにかく安心しています。例年とはすべてが異なり、手探りの中で進行していましたが、大きなアクシデントも起きずに最後までやり切れたので良かったと思います。

佐藤さん 白山祭を締めくくるフィナーレ企画では、毎年最後に三役(実行委員長・副委員長・議長)挨拶があるのですが、その時にみんなで力を合わせて今回の白山祭を作り上げられたこと、無事に終わることができたことなど、さまざまな人への感謝の気持ちが込み上げてきました。

松岡さん ここまで頑張ってくれた実行委員会のスタッフたちに感謝の気持ちを抱きましたね。INIAD-FES当日は、オンライン上でしか顔を合わせたことのないメンバー同士が話し合ったり、協力して作業をしていたりと、みんながとても楽しそうに見えました。やはり“対面で会う”ということはとても大切なだと改めて実感しました。

安田さん 例年にないオンラインでの開催ということで何もかもが手探りの中、さまざまなことを検討しながら雷祭を開催できたことはとても貴重な経験になったと思います。オンライン開催だったからこそ、動画制作や配信に関するスキルなども身についたと思います。

佐藤さん しかし、初めての試みにはやはり反省点も生まれましたね。イレギュラーな事態が起こった際の対応を練り切れていなかったり、もし実際に起きていたら大変だった…ということもいくつかありました。

松岡さん 振り返ってみると、オンライン上でのやりとりだけではメンバー全員に仕事が進まなく割れ振れなかった時期があっ

たり、企画の配信がスマホの画面からでは少し見づらかったことなど課題もあります。

安田さん 私は連絡を密にとることを徹底していくべきだと実感しました。そうすることで、一人ひとりが仕事を抱え込みすぎないように改善できると思います。

佐藤さん 課題もまだまだありますが、それでも今回たくさんの方々に「オンライン大学祭よかったよ！すごい！」とお言葉をいただきました。来年度の大学祭がどのような形式で開催されるかはまだわかりませんが、課題や改善点を後輩たちにしっかり伝えていきます。

松岡さん 来年は朝霞キャンパスの学生が赤羽台に移転するので、お互いの長所を活かした大学祭を作り上げられたらうれしいです。コロナの状況がどうなっているかはわかりませんが、対面でもオンラインでも来場者に安心して来ていただける大学祭の新しいかたちを模索していきたいと考えています。

安田さん オンライン開催の大学祭は初めての試みでしたが「思いのほかクオリティが高くて驚いた」と言われたことはうれしかったですね。「来年度はもっとクオリティが高くなることを期待する」という声もあったので、後輩たちにも頑張ってもらいたいです。



実行委員メンバーで集まって行った打ち合わせ風景(雷祭)

Asaka Campus 第16回 朝華祭

2020年10月31日



朝華祭実行委員長
ライフデザイン学部 健康スポーツ学科 3年
松島 薫さん

キャンパス移転を目前に控え、朝華祭は今年が最後の開催となりました。これまでお世話になった朝霞キャンパスと周辺地域への感謝の意味を込めて「足跡」をテーマとしました。大教室をステージにした企画配信のほかに、移転先となる赤羽台キャンパスのINIAD-FES実行委員のメンバーたちとコラボレーションをしたりと、オンラインをうまく活用した企画の実現ができたと思います。ラストは、朝華祭実行委員総出で丸一日かけて制作した縦4.5m×横4.5mの巨大ドミノ倒しで感謝の想いを表し、朝華祭の歴史に幕を閉じました。



赤羽台キャンパスとコラボしたリモート企画



早押しクイズバトル!

Itakura Campus 第24回 雷祭

2020年10月31日・11月1日



雷祭実行委員長
生命科学部 応用生物学科 3年
安田 昂平さん

雷祭は地域密着型というキャンパスの特徴を活かし、板倉町や近隣の企業と密接に連携した企画を毎年開催してきました。しかし今年はオンラインでの開催となり、例年通りの運営・企画が難しくなりました。そこで、オンライン上での開催に向けて特設Webページを作成。なかなか大学に来ることができていない新1年生やオープンキャンパスなどが中止になった高校生に向けて、キャンパス内やサークル、研究室の紹介動画を通して、まるで板倉キャンパスを訪れたような体験ができる企画を進めました。



生命科学部と食環境科学部が学ぶ自慢のキャンパスツアー



フィールド動物科学研究室の日々の活動を紹介

第97回箱根駅伝 2021年1月2日・3日

その1秒をけずりだせ!

沿道での応援自粛により、
無観客で開催される本年度の箱根駅伝。
再び強い東洋大学へー。
鉄紺魂を胸に、真のチーム力を発揮する。

酒井 俊幸 監督

Profile

1976年生まれ、福島県出身。東洋大学経済学部卒業。1999年、コニカ（現・コニカミノルタ）に入社。退職後、母校の学法石川高校にて陸上部顧問を務め、2009年4月より東洋大学陸上競技部長距離部門監督に就任。

第52回全日本大学駅伝は4区まで若手を起用しながら13年連続となるシード権を確保することができました。またこの大会で起用した選手たちが、昨年からの課題であったチームの中間層のレベルを引き上げてくれました。

10位に終わった昨年度の箱根駅伝を機に、チームの作り直しをテーマに始動しましたが、折からのコロナ禍で選手全員が帰省しました。しかしその間にも、選手たちがそれぞれ自主的に考えて練習に取り組んだことやオンラインツールを使った密なコミュニケーションなどにより、個人の実力がレベルアップし、それとともにチームの雰囲気もより良い状態になっています。

昨年度は相澤晃（現・旭化成陸上部所属）というエースを中心としたチームでしたが、今年度はチーム全員の力を合わせた全員駅伝でトップ争いに加わっていきたいと思います。

コロナ禍で開催される箱根駅伝は、沿道の応援もなく、これまでとは違った厳しい戦いになることが予想されます。日々応援いただいている在学生や卒業生、関係者の皆様に明るい話題を提供できるように全力を尽くします。当日、沿道での応援は自粛を求められておりますが、テレビやラジオ、大学公式の応援サイトなどでの応援をよろしくお願いいたします。

大澤 駿 Shun Osawa
学部学科 経済学部 経済学科4年
出身校 県立山形中央高校(山形)
2020箱根 9区走行 区間9位
2020全日本 5区走行 区間3位

大森 龍之介 Ryunosuke Omori
学部学科 経済学部 経済学科4年
出身校 佐野日本大学高校(栃木)
主将

小田 太賀 Taiga Oda
学部学科 経済学部 経済学科4年
出身校 県立浜松商業高校(静岡)

西山 和弥 Kazuya Nishiyama
学部学科 総合情報学部 総合情報学科4年
出身校 東京農業大学第二高校(群馬)
2020箱根 1区走行 区間14位
2020全日本 7区走行 区間11位

吉川 洋次 Hirotsugu Yoshikawa
学部学科 ライフデザイン学部 健康スポーツ学科4年
出身校 県立那須拓陽高校(栃木)
2020箱根 3区走行 区間13位

蝦夷森 章太 Shota Ezomori
学部学科 ライフデザイン学部 健康スポーツ学科3年
出身校 愛知高校(愛知)
2020箱根 7区走行 区間6位

腰塚 遥人 Haruto Koshizuka
学部学科 総合情報学部 総合情報学科3年
出身校 県立桐生工業高校(群馬)
2020全日本 6区走行 区間5位

鈴木 宗孝 Munetaka Suzuki
学部学科 経済学部 経済学科3年
出身校 県立水取沢高校(神奈川)

宮下 隼人 Hayato Miyashita
学部学科 理工学部 電気電子情報工学科3年
出身校 県立富士河口湖高校(山梨)
2020箱根 5区走行 区間賞・区間新記録
2020全日本 8区走行 区間4位

荒生 実慧 Masato Arai
学部学科 理工学部 都市環境デザイン学科2年
出身校 酒田南高校(山形)

及川 瑠音 Ruon Oikawa
学部学科 総合情報学部 総合情報学科2年
出身校 一関学院高校(岩手)
2020箱根 10区走行 区間19位

柏 優吾 Yugo Kashiwa
学部学科 経済学部 経済学科2年
出身校 豊川高校(愛知)

久保田 悠月 Yuzuki Kubota
学部学科 ライフデザイン学部 健康スポーツ学科2年
出身校 埼玉栄高校(埼玉)

児玉 悠輔 Yusuke Kodama
学部学科 経済学部 経済学科2年
出身校 東北高校(宮城)
2020全日本 1区走行 区間9位

清野 太雅 Taiga Seino
学部学科 経済学部 経済学科2年
出身校 県立喜多方高校(福島)

前田 義弘 Yoshihiro Maeda
学部学科 経済学部 経済学科2年
出身校 東洋大学附属牛久高校(茨城)
2020箱根 8区走行 区間6位
2020全日本 4区走行 区間4位

奥山 輝 Hikaru Okuyama
学部学科 総合情報学部 総合情報学科1年
出身校 浦和実業学園高校(埼玉)

九嶋 恵舜 Keishun Kushima
学部学科 経済学部 経済学科1年
出身校 県立小林高校(宮崎)

佐藤 真優 Mahiro Sato
学部学科 総合情報学部 総合情報学科1年
出身校 東洋大学附属牛久高校(茨城)
2020全日本 3区走行 区間9位

松山 和希 Kazuki Matsuyama
学部学科 総合情報学部 総合情報学科1年
出身校 学法石川高校(福島)
2020全日本 2区走行 区間7位

コース沿道での観戦・応援自粛のお願い

今大会の開催にあたり主催団体から、出場チーム関係者を含めコース沿道での観戦・応援の自粛が強く求められています。大会の開催ならびに本学陸上競技部の活動を継続していくためにも、ご理解いただきますようお願いいたします。大会当日はテレビ放送等が予定されていますので、ぜひメディアを通して選手たちへ熱い声援をお送りください。

箱根駅伝応援ポータルサイト「鉄紺応援ボタン」

大好評企画!! 鉄紺のランナーを応援する「鉄紺応援ボタン」。
今回は「デジタルの沿道」を鉄紺に染めよう!」がキーワード。コース沿道での観戦・応援ができない分、ボタンを押して鉄紺のランナーを応援しましょう! ボタンの応援総数が増えると… ついボタンを押したくなる仕掛けも用意して盛り上げます。



<https://www.toyo.ac.jp/tetsukon/>

Special Interview OB・OGの今

Alumni Report

株式会社ガンバ大阪 代表取締役社長

小野 忠史 おの ただし

スポーツもビジネスも

「あきらめない心」で可能性を追求。

私がガンバ大阪の社長に就任したのは今年の4月。前年に副社長へ就任するまではサッカーを観戦したこともなく、ほとんど素人同然でした。そこで初めてJリーグを生で観戦。野球と異なる雰囲気とサポーターの圧倒的な盛り上がり「なんだこれは…」と鳥肌が立ちました。ガンバ大阪といえばJリーグ設立当初から参加する歴史あるクラブ。熱狂的なファンもたくさんいます。その経営を任される責任には重みがあります。

私は高校、大学、社会人と野球を続け、そこから多くの経験を得ました。高校時代はPL学園で全国制覇を達成、連日大逆転での快進撃に「逆転のPL」と呼ばれ、「あきらめずに戦えば何かが起こる」という言葉を、身をもって実感しました。大学や社会人野球での負けが許されない緊張感の中で戦ったことも、得難い経験として私の一部となっています。青春時代、来る日も来る日も野球漬けの日々は、今でも思い出すたびに「よく耐えたな…」と思いますが、あきらめない心をもってそれらを乗り越えたことが大きな自信になっているのは間違いありません。

社会人野球の引退後は、パナソニック本社の営業として数々のビジネスに関わってきました。例えばEV(電気自動車)の黎明期に、車載部品の開発を自動車メーカーと共同で行い、グローバル市場におけるシェア拡大に従事。統括部長として300億円のビジネスを1600億円規模にまで広げました。その時も心掛けていたのは、ネバーギブアップの精神、あきらめない心です。企業のフロントである営業があきらめたら、ビジネスは広がりません。ある会社からの発注にたいして、社内リソースが埋まっていたときも、そこであきらめず、事業部の壁を越え別ルートのラインをつくって受注に繋げるなど、実現の可能性を信じて粘り強く動きました。頭は冷静に、されど気持ちは熱く、あきらめずに振る舞っていれば拓ける道が必ずあるというのは、スポーツもビジネスも同じだと思います。部下にも自分の成功体験をまじえ、単なる精神論にとどまらない、あきらめない気持ちを伝えてきました。

チーム・ガンバ大阪で

皆さんと喜びを分かち合いたい。

現在、新型コロナウイルス感染症によりクラブ運営が大変難しい状況にあります。そんな中でも100を超えるパートナー企業の皆様が「一緒がんばろう」と言ってくださり本当に感謝しています。選手たちには「その人たちのおかげでサッカーができていないことを忘れないでほしい」と伝えています。プロとしてサッカーを最優先させたい選手たちの気持ちもわかりますが、クラブの取支を見せ、現状を理解してもらった上で、送迎や洗濯など自分でできることはしてもらおうなど、共にこの困難を乗り越えるために協力合っています。

周りからは「大変な時に社長になったな」と言われますが、そうは感じていません。苦しんでいるのはどこも同じ。とにかく今はサポーター、パートナー、自治体、選手、そして我々スタッフが、ひとつのチームになってこの難局を乗り切る、そのための雰囲気をつくるのが社長である私の仕事だと思っています。

ガンバ大阪の理念は『サッカーを通じて、社会に夢と感動を創造する』。スポーツクラブの経営という社会を元気にできる仕事に、これまでとは違ったやりがいを感じています。これからも、私の原点である、あきらめない心をもって進み続けます。そしていつの日かリーグ優勝の喜びを、関係者全員で分かち合いたい!というのが私の願いです。

(取材:2020年7月7日)

Profile

1984年、経営学部商学科(現・マーケティング学科)卒業。在学中は硬式野球部に在籍し、卒業後も松下電器産業(現・パナソニック)で野球を続け、選手引退後はコーチを経験。その後社業に専念し、2020年4月よりJリーグのサッカークラブであるガンバ大阪社長に就任。タイトル獲得を目指す。

第23回ホームカミングデーをオンライン開催 2020年3月・9月卒業生・修了生の卒業式を挙行

NEWS 01

2020年10月25日、「第23回東洋大学ホームカミングデー」を開催しました。今年は新型コロナウイルス感染拡大を鑑みて、さまざまな企画の配信動画をご覧いただくオンライン形式にて実施しました。



今回のホームカミングデーのメイン企画は、コロナ禍のために卒業式が中止となった今年3月・9月の卒業生・修了生を対象としたオンライン卒業式の挙行。お笑いコンビ「フォーリンラブ」のパービーこと笹森花菜さん(2006年文学部インド哲学専攻卒業)に総司会をしていただき、大学生活を切り取った映像に校歌をのせて学生時代を振り返り、竹村牧男前学長と矢口悦子学長による式辞や証書授与、卒業生代表の謝辞、学校法人理事長や著名卒業生からのメッセージなどで彩られた卒業式となりました。

対談企画

新社会人卒業生対談



「新社会人卒業生対談」では、元NHKアナウンサーで本学非常勤講師の山下信氏(1975年社会学部応用社会学専攻卒業)による進行で、今年新社会人となった3人の卒業生にコロナ禍で入社を迎えた率直な気持ちや実際の働きなどを語り合っていました。

卒業生アスリート対談 / 指導者対談



特別企画「がんばれ卒業生! Fight! 卒業生アスリート」では、陸上競技の桐生祥秀選手(2018年法学部企業法学科卒業)と競泳の大橋悠依選手(2018年国際地域学部国際観光学専攻卒業)による卒業生アスリート対談をTBSアナウンサー小笠原亘氏(1996年社会学部応用社会学専攻卒業)を進行役に迎えて実施。コロナ禍でのトレーニングやメンタルケア、そして現在の心境などを語っていただきました。さらに、桐生選手・大橋選手の恩師である土江寛裕教授と平井伯昌教授による指導者対談も行い、延期となった東京オリンピックの開催に向けて、期待の高まる企画となりました。

その他の企画として、Web会議システムを利用して卒業生が教員と再会できるゼミごとの交流会や、事前登録した参加者データを参考に世代を超えて学部や現在の業種など共通点のある卒業生同士がオンラインで会話をする交流会も開かれました。初のオンライン開催となったホームカミングデーは、大盛況の1日となりました。

コロナ禍における影響を把握する 在学生アンケート調査を実施

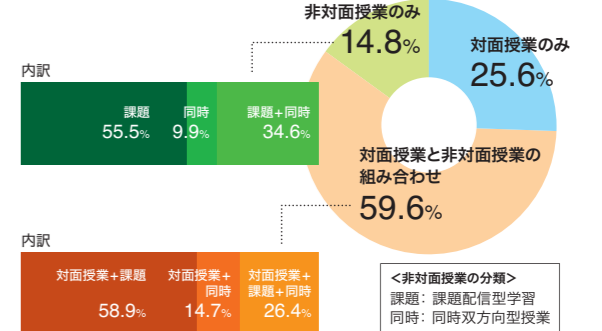
NEWS 02

- 実施期間: 2020年9月18日~10月16日
- 対象: 学部1~4年生
- 回答率: 39.0%(11,856人)

今年度は新型コロナウイルスの影響で授業を非対面形式で実施するなど、多くの学生が従来と異なる大学生活を過ごしています。そうした学修・生活への影響を具体的に把握するため、本学では学部生を対象にしたアンケート調査を実施しました。春学期の授業は、ほぼ全ての学生が非対面(メディア)形式の授業を受講。そのメリットとして『自分のペースで学修できる』『通学時間の短縮』と効率面が挙がる一方、『課題の多さ』『身体的疲労』『友人とともに学びあえない』など学修環境の不便さを感じる声もありました。コロナ収束後も半数以上の学生が対面・非対面の組み合わせの授業形態を希望。授業の性質にあわせた柔軟な学修環境の整備が求められています。

生活においては、約8割の学生が外出を控え、中には『節約のため実家に戻って過ごした』『アルバイトの減少により節約していた』と経済的な対応を迫られた学生が一定数いたことも判明しました。現時点で先行きが見えない中、大学生活や進路に対し不安を感じている学生は8割を超えています。引き続き調査結果を分析し、実態のさらなる把握・学修環境の改善に努めていきます。

Q1 今後、新型コロナウイルスの事態が収束した後、授業はどのような形態で実施してほしいと思いますか。(最もあてはまるもの1つ)



Q2 大学生生活や進路に対して、どんなことを不安に感じていますか。(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学生の割合)

希望通り就職できるか	68.3%
取りたい資格が取得できるか	57.1%
授業についていけるか	55.2%
学費や奨学金の問題	52.1%
卒業できるか	52.1%
教員とのコミュニケーションができるか	51.5%
仲の良い友人をつくれるか	51.1%

フードバンクによる助け合いの場を創出 「Hands to Hands — みんなで乗り越える、コロナ禍 —」を実施

NEWS 03

新型コロナウイルスの影響で仕送りやアルバイトの機会が減少するなど、学生にとって経済的に不安な生活が続く中、本学のボランティア支援室が中心となり「Hands to Hands — みんなで乗り越える、コロナ禍 —」と題したフードバンクを実施しました(後援・協力: 東洋大学学生会、東洋大学校友会、東洋大学生協)。2020年9月より卒業生や教職員、在学生やご父母60人以上から食料品の寄贈があり、特にお米は合計340kgになるなど大変多くの支援をいただきました。集まった食料品は、学生ボランティアが整理して1人分に仕分け。10月から全キャンパスで開始した受け取りは密な状況の回避とプライバシーに配慮するため事前予約制とし、検温・消毒を行うなど感染予防を徹底しました。「寄贈者・受け取った学生それぞれからメッセージを寄せてもらい、関わった人々の想いが伝わる助け合いの場となりました。多くの方々にご支援いただき感謝しています。」と担当者は語り、11月には2回目のフードバンクを開催しました。



2020年 プロ野球ドラフト会議にて 在学生1名・卒業生1名が指名

NEWS 04

2020年10月26日、プロ野球の新人選手選択会議（ドラフト会議）が行われ、硬式野球部の村上頌樹投手（総合情報学部総合情報学科4年）が阪神タイガースから5位、また本学卒業生でENEOS野球部所属の藤井聖投手（2019年法学部法律学科卒業）が東北楽天ゴールデンイーグルスから3位で指名を受けました。

村上投手は兵庫県出身で、奈良県の強豪・智辯学園高等学校3年生時には春の選抜大会で全国優勝の立役者に。本学入学後も1年生から東都大学野球春季リーグ戦に出場、昨春は6勝無敗、防御率0.77と抜群の成績を残し優勝の原動力となりました。村上投手は「思い出のある甲子園をホームグラウンドにできるのは光栄です。自分の姿を高校生が目指してくれたらうれしいです」と語り、活躍を誓いました。

藤井投手は2019年3月に本学卒業後、ENEOS株式会社に入社。都市対抗野球大会などで活躍し、今年のドラフト会議では社会人No.1左腕と評されていました。「今回のドラフト会議で良い評価をしていただけたのは、東洋大学での経験があったからこそ。これまでサポートや応援をいただいた方々への感謝を忘れず精進します」と決意を語りました。両投手の今後の活躍にご期待ください。



村上頌樹投手



藤井聖投手

陸上競技部 長距離部門が各大会に出場 5000m競歩で日本新／全日本大学女子駅伝／全日本大学駅伝

NEWS 05

●競歩 池田向希選手



(写真／報知新聞)

2020年10月25日、陸上競技部 男子長距離部門 競歩の池田向希選手（経済学部経済学科4年）が、第9回順天堂大学競歩会の5000m競歩で、18分20秒14の日本新記録を樹立しました。池田選手は、3月に行われた全日本競歩能美大会で初優勝し、東京五輪男子20km競歩の日本代表に内定。来年度から社会人陸上部の強豪・旭化成への入社が内定しており、東京五輪での活躍も期待されます。

●全日本大学女子駅伝対校選手権大会



(写真／月刊陸上競技)

2020年10月25日、女子長距離部門が第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に出場しました。創部9年目で8年連続8回目の出場となり、一時はシード圏内の6位につけるも最終的には16位でゴール。目標としていた2016年以来4年ぶりのシード権獲得とはなりませんでしたが、多数の1・3年生が活躍し来年に向けて期待のもてる大会となりました。

●全日本大学駅伝対校選手権大会



(写真／月刊陸上競技)

2020年11月1日、男子長距離部門が秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝対校選手権大会へ出場しました。前半区間は1・2年生の若い力を主体に、後半区間に3・4年生の主力を並べた陣容で出走。終盤まで上位チームとの差が開かない混戦となる中、「1秒をけずりだす」懸命な走りを見せ総合6位となりました。次年度の出場権となるシード権を13年連続で獲得。2021年1月に開催される箱根駅伝に向けてさらなる挑戦を続けていきます。

円了の志を受け継ぐ哲学堂祭を挙行

NEWS 06

2020年11月7日、東京都中野区の蓮華寺と哲学堂公園において2020年度哲学堂祭を挙行了しました。今年は新型コロナウイルスの影響で、例年より規模を縮小。約30名が参加しました。

井上円了の法会である墓前祭の後、哲学堂公園の「四聖堂」へ移り、円了の曾孫にあたる井上進氏による遺文の朗読と、矢口悦子学長による円了の遺した唱念「南無絶対無限尊」の三唱を行いました。その後の記念講演では「釈迦とマンガラー 仏教における世界と自己」をテーマに、文学部東洋思想文化学科 山口しのぶ教授がインド宗教の歴史・世界観、マンガラの意味や現代における視点などについて講演しました。円了が精神修養の場として創設した自然豊かな哲学堂公園にて、円了や哲学に想いを馳せる時間を過ごしました。



哲学堂祭とは毎年11月の第一土曜日に、哲学の普及を願った本学の創立者井上円了の遺言に基づき執り行われます。記念講演では、哲学堂公園の四聖堂に祀られる哲学の四聖（釈迦、孔子、ソクラテス、カント）から1人をテーマに毎年講演を行います。

《 INFORMATION 》

2021年1月～3月に約350社が参加する 全学部対象のオンライン合同企業セミナーを開催

本学主催によるオンライン合同企業セミナーを、2021年1月から3月にかけて計5回開催します。新型コロナウイルスの影響を受け今年度はオンライン開催となりました。2022年3月卒業予定の全学生を対象に、「本学の卒業生が活躍している」「業界で大きなシェアを占めている」「東洋大学生の採用に積極的である」といった特長をもつ企業・団体が5日間で約350社参加。人気企業のセミナーに希望者全員が参加できるのもオンライン開催の特長です。採用担当者から業界の現状や企業概要、仕事内容などを直接伺い、チャットを通して質問ができる貴重な機会となります。さらに当日聞くことができなかった企業のセミナーも、後日配信される録画データにより視聴可能です。

この合同企業セミナーに先立って、2020年11月に行われた「オンライン業界理解セミナー」にも多数の学生が参加し、自身のキャリア選択について視野を広げています。学生の未来を拓くため、日々状況が変化する就職活動のサポートを今後も続けていきます。



●視聴方法や参加企業など詳細はToyoNet-Gでご確認ください。

2020年度 学位記授与式・卒業式について

2021年3月の卒業生・修了生を対象とした、東洋大学学位記授与式・卒業式を2021年3月23日に日本武道館にて挙行予定です。政府および東京都が示す新型コロナウイルス感染症対策の収容人数制限に従い、卒業生・修了生のみでの入場とし、午前・午後の2部制で学部・研究科ごとに執り行います。当日ご来場できない卒業生・修了生やご父母（保証人）等に向けて、ライブ配信も予定しています。詳細が決定次第、本学Webサイトにてご案内します。